

宮地遺跡 — 2次—

西諸広域消防須木分遣所改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書



2001. 3

宮崎県須木村教育委員会

須木村文化財調査報告書 第5集

宮地遺跡 — 2次 —

西諸広域消防須木分遣所改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書

2001. 3

宮崎県須木村教育委員会

序

埋蔵文化財の保護、並びに埋蔵文化財行政については、日頃より深いご理解、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

この報告書は、平成11年度西諸広域消防須木分遣所改築工事に伴い、施工責任者たる須木村役場企画商工課の委託を受け、須木村教育委員会が行った宮地遺跡の調査記録です。

また、前年度の村立中央保育園改築工事に伴い同村教育委員会が行った宮地遺跡発掘調査の2度目の調査記録でもあります。

宮地遺跡（2次）では、平成11年7月須木村教育委員会が行った確認調査により、住居跡の存在が確認されました。今回の本調査に於いても、弥生時代の住居跡が検出され、住居内からは石鏃、石槍、石包丁が出土しました。

須木村教育委員会では、前年度に続く同遺跡の調査が村の黎明期を語るに貴重な資料を提示し、文化財保護事業を進める上で大きな成果であったと考えております。

なお、調査に当たって、ご指導とご協力をいただきました宮崎県教育委員会文化課をはじめ、須木村役場関係部局、並びに発掘調査に従事くださいました作業員の方々、地元の方々に対し心から感謝の意を表します。

平成13年3月

須木村教育委員会

教育長 長 嶺 護

例 言

1. 本書は、西諸広域消防須木分遣所改築工事に伴い、須木村教育委員会が実施した宮地遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は須木村教育委員会が主体となり平成11年9月から11月までの間行った。
3. 宮地遺跡は須木村大字上ノ原に所在する。
4. 本書に使用した遺跡周辺分布図は国土地理院発行の2万5千分の1の地形図であり、須木村遺跡詳細分布調査報告書」に掲載されたものを転用した。
5. 現場での遺構の実測等は、調査員柏野勝重が行なった。
6. 本書に使用した空中写真は、(株)スカイサーベイに委託した。
7. 本書の編集・執筆は柏野勝重が行った。

目 次

序	1
例 言	3
目 次	3
第1章 はじめに	5
1. 調査に至る経緯	5
2. 調査の組織	5
3. 遺跡の位置と環境	6
第2章 調査の成果	8
1. 調査の概要	8
2. 各時代の遺構と遺物	9
第3章 おわりに	10

第1章 はじめに

1 調査に至る経緯

宮地遺跡は、平成4年度から5年度にかけて文化庁・宮崎県の補助を受けて須木村教育委員会による遺跡詳細分布調査により弥生時代の遺物散布地として確認、周知されるに至った遺跡である。

平成11年度、西諸広域行政事務組合は西諸広域消防須木分遣所の改築工事を計画し、建設予定地内における文化財の有無について施工責任者たる須木村役場企画商工課を通じて同教育委員会へ照会がなされた。村教育委員会では、予定地内が周知の宮地遺跡内であること、前年度実施の同遺跡発掘調査と同様の成果が考えられること等から、協議の上、確認調査を実施し、その結果住居跡が確認されたことにより今回の本調査実施に至ったものである。

なお、西諸広域消防須木分遣所建設予定地の南に接して、須木村給食センターの移転予定地がある。これについては、建設が予定の段階であるが建設が決定した場合、事業を円滑に進捗させる意味で、分遣所建設予定地と同時に確認調査を行った。しかしこちらからは遺構・遺物は確認できなかったため、本調査は実施していない。

調査は平成11年9月7日から11月1日までの間行われた。調査面積は延べ639.16㎡である。

2 調査の組織

調査主体	須木村教育委員会
	教育長 長嶺 護
	教育総務課長 安竹 茂見
	生涯教育課長補佐 坂本 幹夫
	調査担当 柏野 勝重（生涯教育課嘱託）
	発掘作業員

調査指導	宮崎県教育庁文化課
------	-----------

3. 遺跡の位置と環境

宮地遺跡（2次）は、宮崎県西諸県郡須木村大字中原1696番地-16に所在する。須木村は宮崎県南西部に位置し、北は西米良村、東は綾町、南は小林市、そして西は熊本県多良木町に接している。周囲を九州山地の山々に囲まれ、その間を大淀川に注ぐ本庄川が村内の中心部を北西から南東に流れる。

遺跡は本庄川の左岸、標高約384mの地点にあり、川に面した台地上に広がっている。

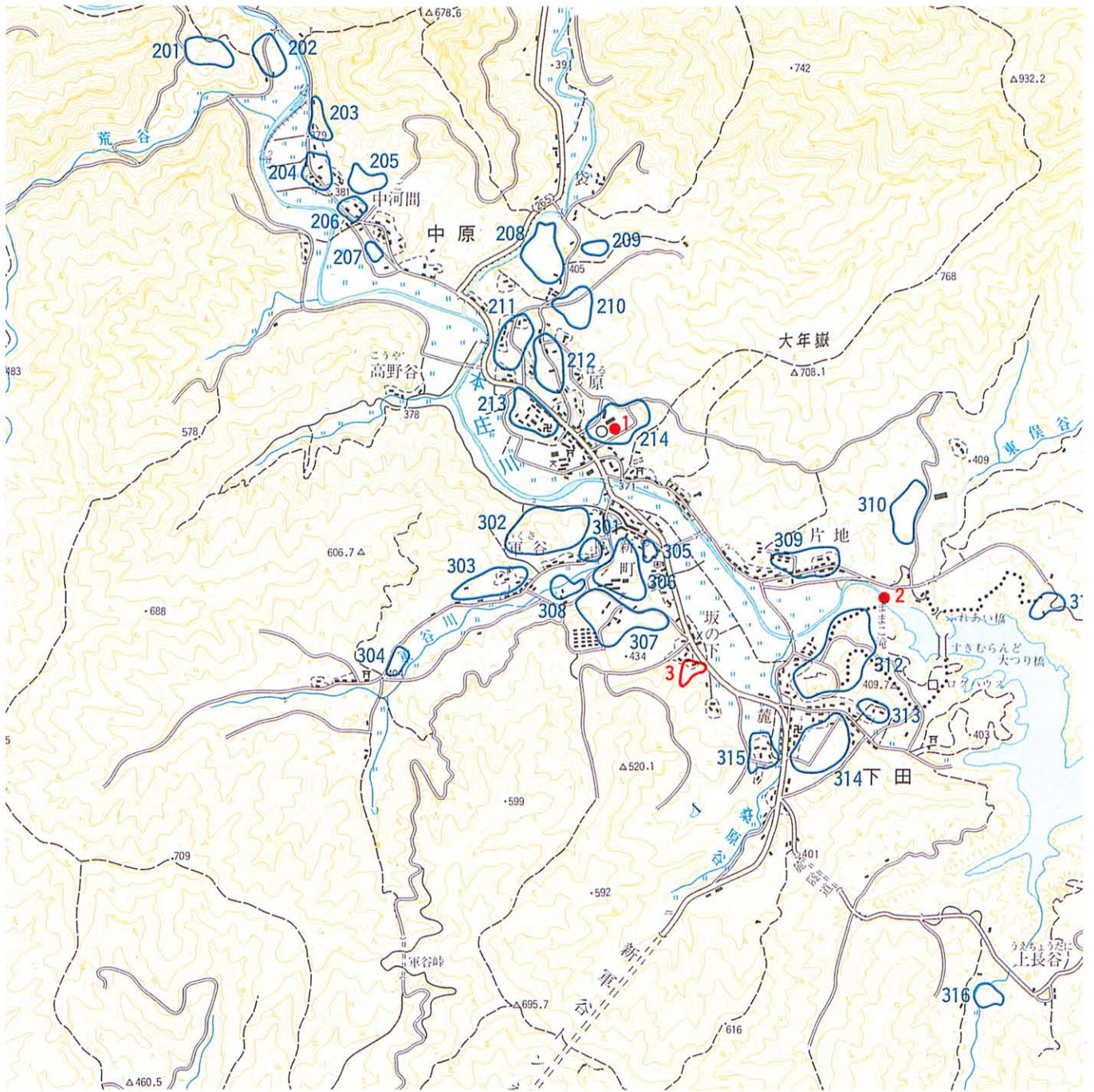
須木村で現在、「埋蔵文化財包蔵地」として周知されている遺跡は91ヶ所あり、その殆どは遺物散布地である。うち縄文時代の遺跡が39ヶ所、弥生時代の遺跡が6ヶ所、両時代を含めた遺跡が19ヶ所等となっている。過去の発掘例としては、上長谷遺跡（縄文～弥生）、田代ヶ八重遺跡（縄文、古代～近世）、大年谷遺跡（縄文、古墳）、上床遺跡（縄文～中世）、尾殿遺跡（試掘実施。縄文、古墳）等がある。

古墳時代の遺跡には、上ノ原地下式横穴墓群が代表例として挙げられる。中でも、第9号地下式横穴墓からは頭部に櫛をさした状態で人骨が埋葬されていた。また、今回の調査地の北約50mには、前年度実施の宮地遺跡（1次）調査地があり、ここからは古墳時代の住居跡、縄文時代の集石遺構、石鏃、スクレイパー等々が検出されている。

これ以降の時代でも、奈良から近世にかけて各時代の遺跡が存在している。中でも、須木城（試掘）は室町期の伊東氏の西諸方面における重要な城であり、島津氏等との争いにも度々巻き込まれたことが知られている。また、麓上原遺跡（試掘）では、14～15世紀の建物跡とみられる柱穴及び遺物が確認されている。

【参考文献】

1. 「須木村史」宮崎県西諸県郡須木村 1995年
2. 「須木村遺跡詳細分布調査報告書」須木村文化財調査報告書第2集 1994. 3
3. 「上長谷遺跡」須木村文化財調査報告書第3集 1995. 3



周辺の遺跡分布図 (1 / 25,000)

- | | | | |
|-------------|-------------|-------------------------------------------------------------------|-------------|
| 201. 川内山遺跡 | 202. 川内遺跡 | 203. 冷水遺跡 | 204. 富永遺跡 |
| 205. 修行谷遺跡 | 206. 岩船遺跡 | 207. 小城遺跡 | 208. 上床第1遺跡 |
| 209. 上床第2遺跡 | 210. 上床第3遺跡 | 211. 下ノ原遺跡 | 212. 上ノ原遺跡 |
| 213. 宮地遺跡 | 214. 大年谷遺跡 | 301. 軍谷第1遺跡 | 302. 軍谷第2遺跡 |
| 303. 軍谷第3遺跡 | 304. 山宮遺跡 | 305. 永田遺跡 | 306. 尾殿第1遺跡 |
| 307. 尾殿第2遺跡 | 308. 尾殿第3遺跡 | 309. 片地遺跡 | 310. 西俣遺跡 |
| 311. 鶴園遺跡 | 312. 須木城跡遺跡 | 313. 唐池遺跡 | 314. 麓上原遺跡 |
| 315. 表遺跡 | 316. 上長谷遺跡 | (この分布図は、「須木村遺跡詳細分布調査報告書」の地図を転載したものであり、従い上の地図中遺跡範囲脇に付された番号もこれに拠る。) | |

第2章 調査の成果

1 調査の概要

本遺跡は、平成11年9月7日から11月1日までの約2ヶ月にわたって調査が行われた。

調査区は前述のとおり、確認調査が同年7月に行われている。その結果に基づき、今回の調査では消防署建設予定地については、約1060m²の内439.16m²を、給食センター建設予定地については、約740m²の内延べ200m²を掘り下げることとした。

調査は過去当地に所在した工場建設の際と思われる整地土を重機によって剥ぎ取ることから始めた。これら整地土を全て除去したところ、現地表下50cmで黒色土を検出した。耕作土の全てと黒色土の一部は既に削平されている。また、現地表下70cmでアカホヤ層を検出した。これら土層の状況はほぼ全面的に同様であるが、南側が若干下がる。因みに、前年度実施の第1次調査では、調査区西側で20～40cm、南側で60cm～1.5mでアカホヤ層が検出されているが、台地際に近づくにつれ、アカホヤが落ち込んでいるという状況であった。今回の調査でも、土層の堆積を観察すると、台地の際に近づくにつれアカホヤ層が落ち込んでいくという状況が確認できた。

アカホヤ層上面では、弥生時代中期後半期と思われる円形の竪穴住居を計3棟検出した。この内2棟の住居（SA01・03）は、SA02に比してその大きさが約1/2程度の規模しかない。

アカホヤ層より下層では、調査区東端付近に南北約20m、東西約2mのトレンチを設定し、掘削した。その結果、現地表下1.0m～1.2mで茶褐色の粘質土を検出した。遺構は確認できなかったが、遺物は型式が不明ながらも縄文土器の小片が数点出土している。

2 各時代の遺構と遺物

縄文時代

縄文時代の遺構と遺物については、調査の概要のところでは記したように、遺構は検出できていない。また、遺物については型式は不明であるが小片が数点出土したのみである。但し、この時代を対象とした調査面積は極めて限られた範囲であり、全面的に掘削した場合、遺構・遺物について少なからず成果は上がったと考える。

弥生時代

弥生時代の遺構と遺物については、調査の概要のところでは記したように、それなりの成果はあったと考える。

SA01は、径が2.40mの扁平な円形プランである。住居内遺構としては、中央よりに2ヶ所、壁寄りに3ヶ所ピットを検出した。中央のものは支柱穴と考えられる。壁寄りのものはこの規模の住居からすると支柱とは考えにくく、貯蔵穴と思われる。遺物には、最大長11cmの石槍、石包丁（一部欠損）、片刃石（黒曜石）という石製品の他、弥生中期と思われる壺形土器の口縁片がある。

SA02は、径5.25mの円形プランである。床面中央付近が長辺3.2m、短辺2.6mの方形に段落ちしている。段落ちの外、壁寄りに40cmと20cmの大小2つのピットを検出したものの、残念ながら中央付近でピットは検出できなかった。段落ち内外共、床面近くで各種遺物が出土している。段落ち内では、土器の他、石包丁が、段落ちの外からは石器（用途不明）、土器、木炭片が出土した。また、埋土からの出土であるが磨製石鏃が1点出土している。

このSA02のすぐ南に平面形は一部調査区外へ延びていたり、攪乱を受けたりと判然としないものの、当初おそらく円形プランの住居であろう黒色土の堆積した部分が認められた。しかし掘削したところ、検出レベルから深いところでも20cmほどで、内部も攪乱が著しかったため、今回の調査においては住居としていない。但し、打製石鏃が1点、土器片が数点出土している。

SA03は、今回の調査で検出された住居の最南端に位置する。基本形は、径2.5mの円形プランであるが、南側が張出す。平面形は円形よりもむしろホタテ貝の形に近い。床面は円形部分と張出し部分にレベルの差は認められない。ピットは円形部分については検出できなかったが、張出し部分の中央に1基検出した。出土遺物としては、ここでも石包丁の他、土器片が出土している。

このSA03に於いても、そのすぐ西に当初住居と思われた黒色土の堆積した部分が認められたが、これも掘削したところ、検出レベルから深いところでも10cmほどであったため、住居とはしなかった。また、遺構・遺物は認められなかった。

第3章 おわりに

今回の宮地遺跡発掘調査では、弥生時代中期後半と思われる遺構・遺物と、縄文時代早期と思われる遺物を確認した。ここにその結果をまとめる。

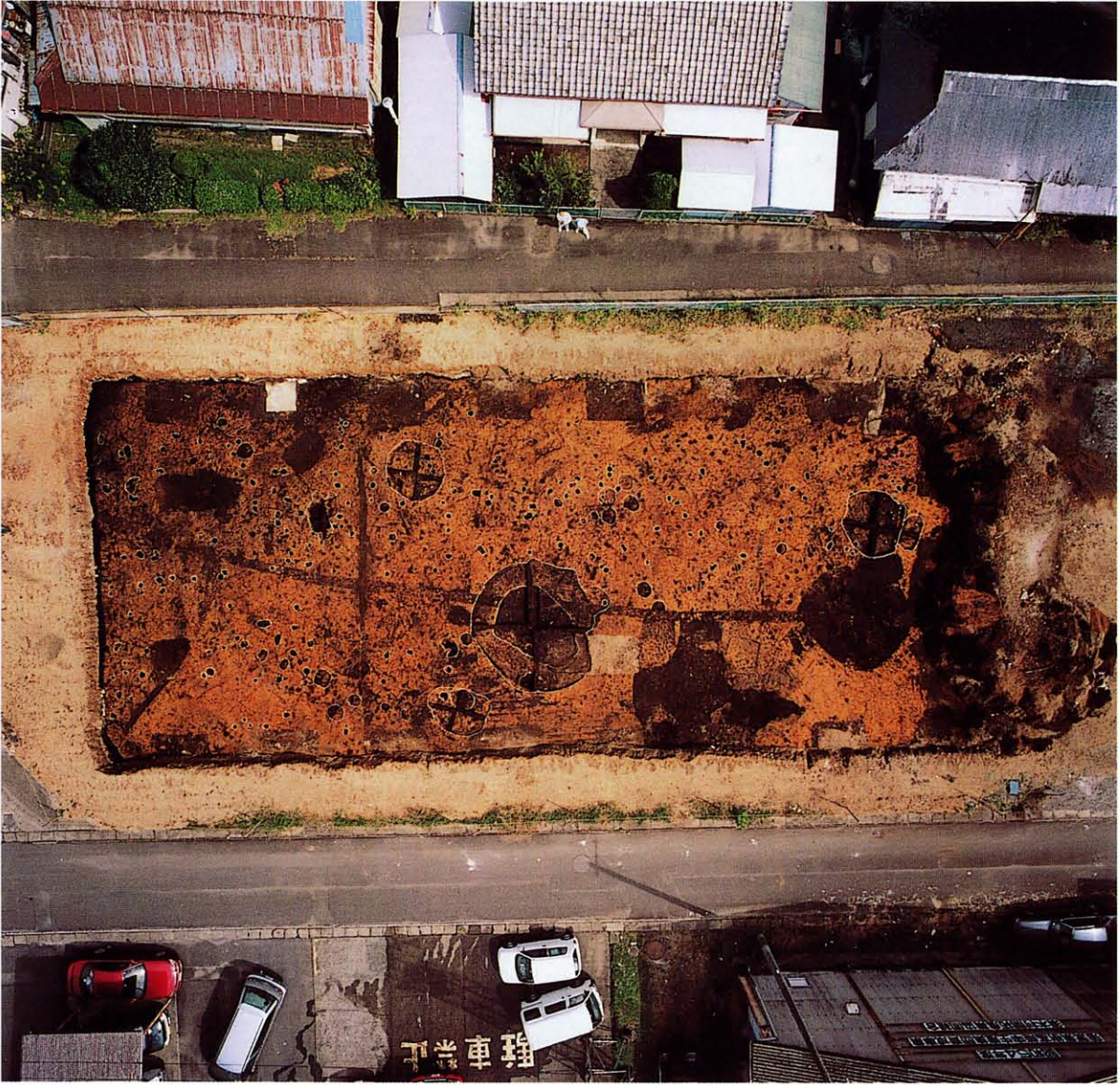
縄文時代

第2章でも述べたように、縄文時代を対象とした調査面積が狭小であったため、残念ながらこの時代の成果については、大きなものは得られなかった。但し、数自体は少ないものの、散石群と見られる石や、縄文土器が出土したということは、昨年度の調査と考えあわせると、縄文時代の宮地遺跡は、その一部だけではなく、ほぼその全てが人々の営みの場所であったということである。今後、宮地遺跡の縄文期について言えることの一つには、住居跡の検出等が挙げられよう。それは今後の課題としたい。

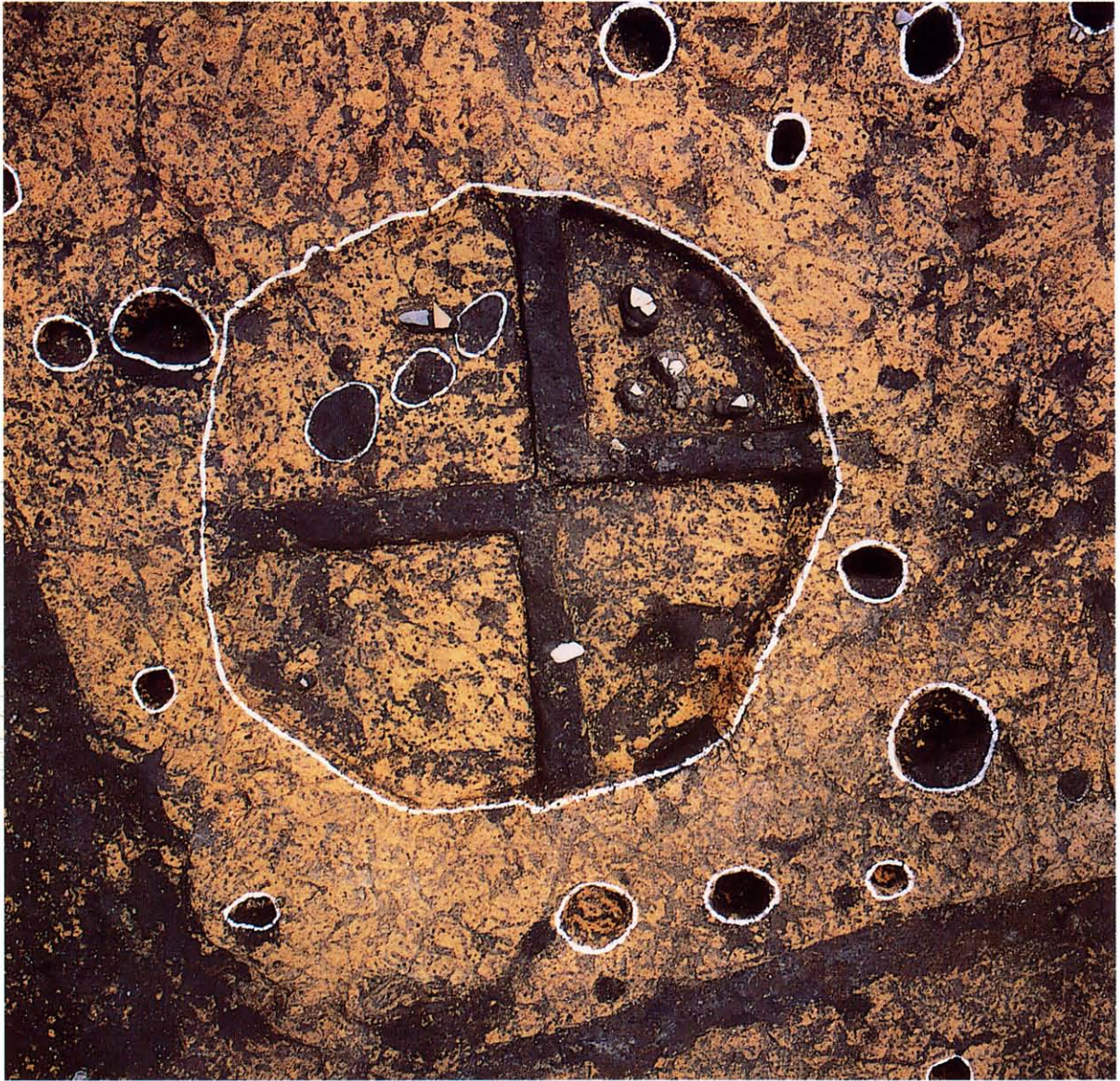
弥生時代

この時代については、大きな成果があったと言える。それは住居が3棟検出されたことや、その全てから石包丁がをはじめとした石製品、弥生土器が出土したことである。これらのことを昨年度の宮地遺跡発掘調査と比較してまとめてみたい。大きな違いの一つには、昨年度の調査で検出された住居はその全てが隅の丸い方形プランの住居であったのに対し、今回の調査で検出された住居は逆に全てが円形を基調としたプランである。九州地方では弥生時代中期後半を境として平面形が円形から方形へに変化し、また、中期以後、他地方に先駆けて小型住居から大型住居まで含めて方形平面の竪穴住居が主流になる様相を示す。宮地遺跡では、その範囲の全てが調査されたわけではない。しかしながら、明らかにその性格を異にする住居が検出されたということは、宮地遺跡の弥生時代は住居のプラン変化の過渡期に当たっていたと言えることができる。

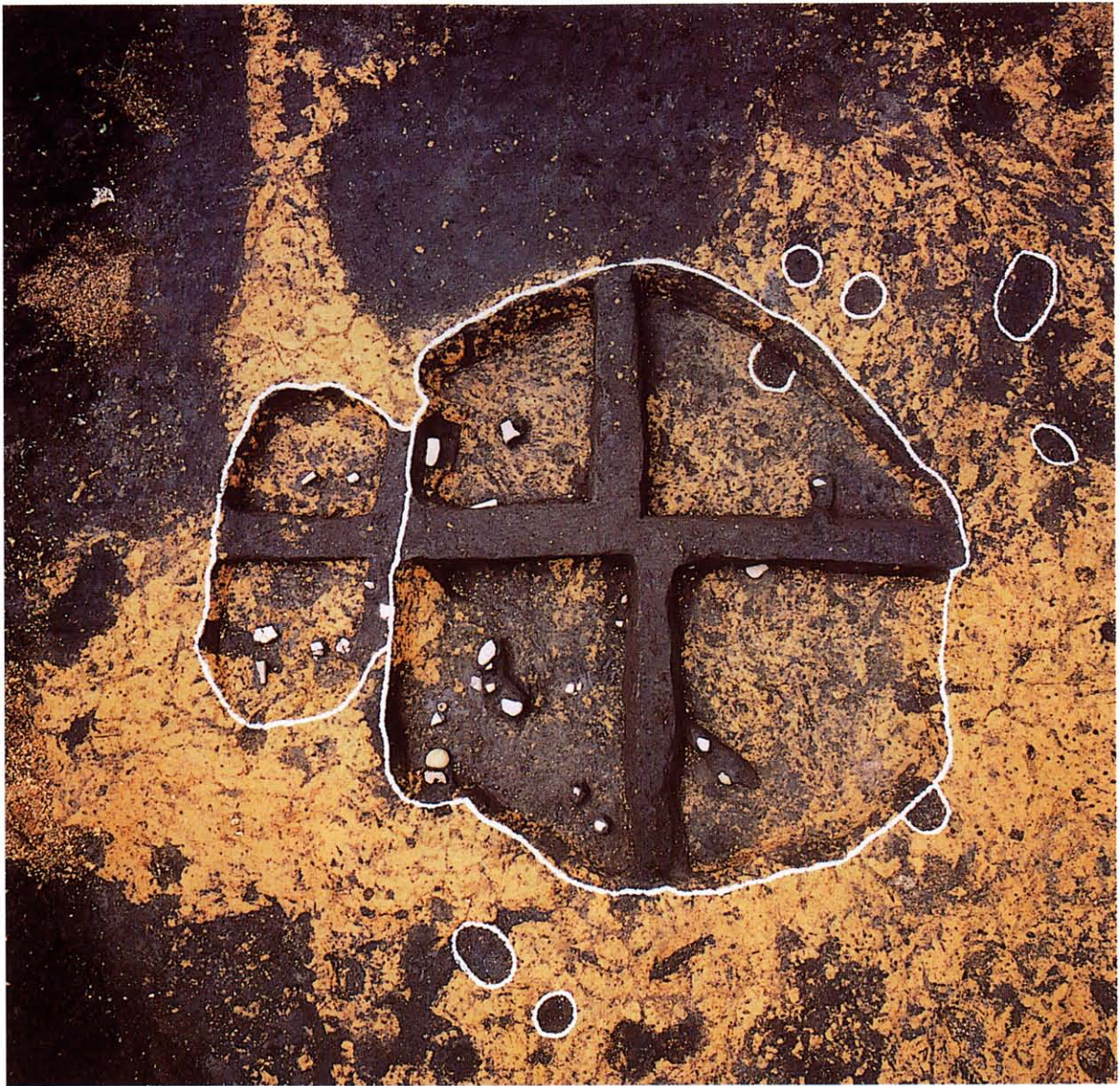
一つの遺跡、それも同じ台地上の、さらに同じ土層上から昨年度と今年度でこのような相違が確認できたということは、少なくとも、弥生時代中期以降から古墳時代にかけてのこのあたりに暮らした人々の営みを考える上で貴重な成果であったと言えよう。今回、この報告で触れ得なかった住居以外のピット群や、住居並びに遺物についてのさらなる検討は今後も継続しなければならない課題である。



調査区全景



SA 01



SA 0 2



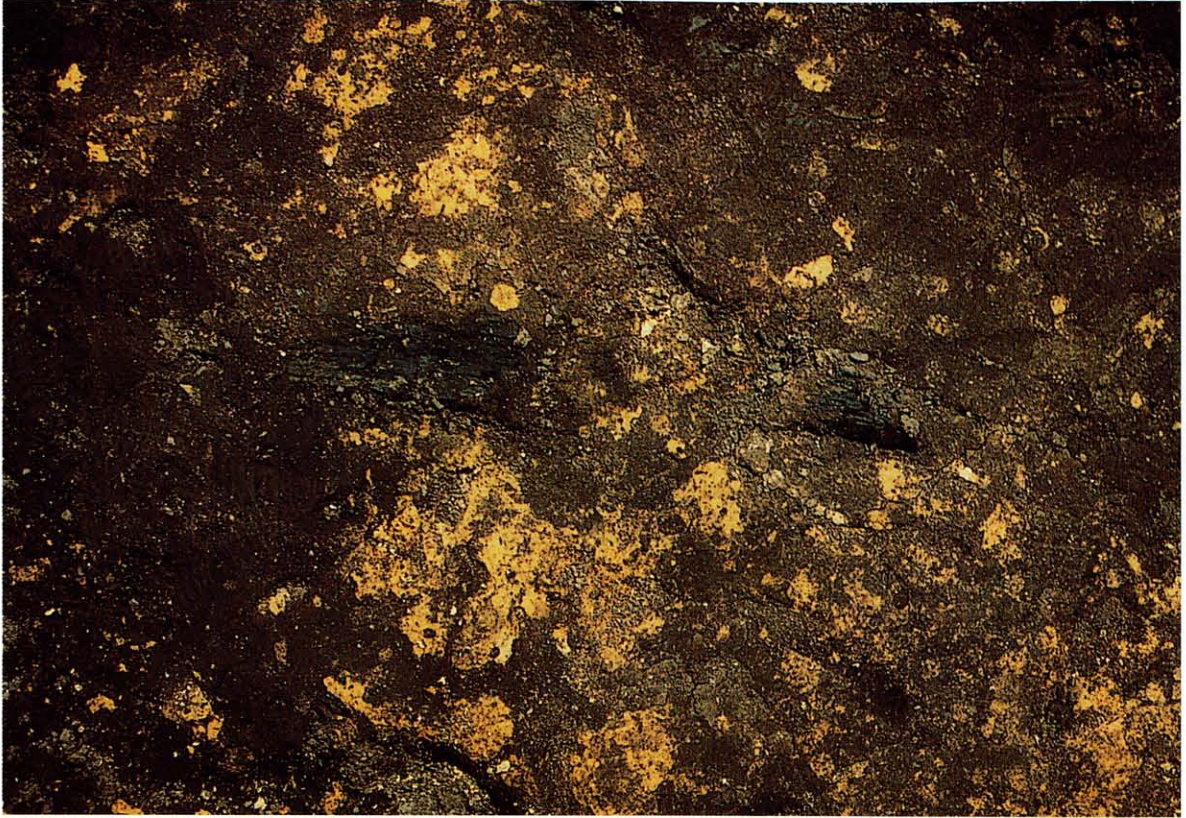
SA 0 3



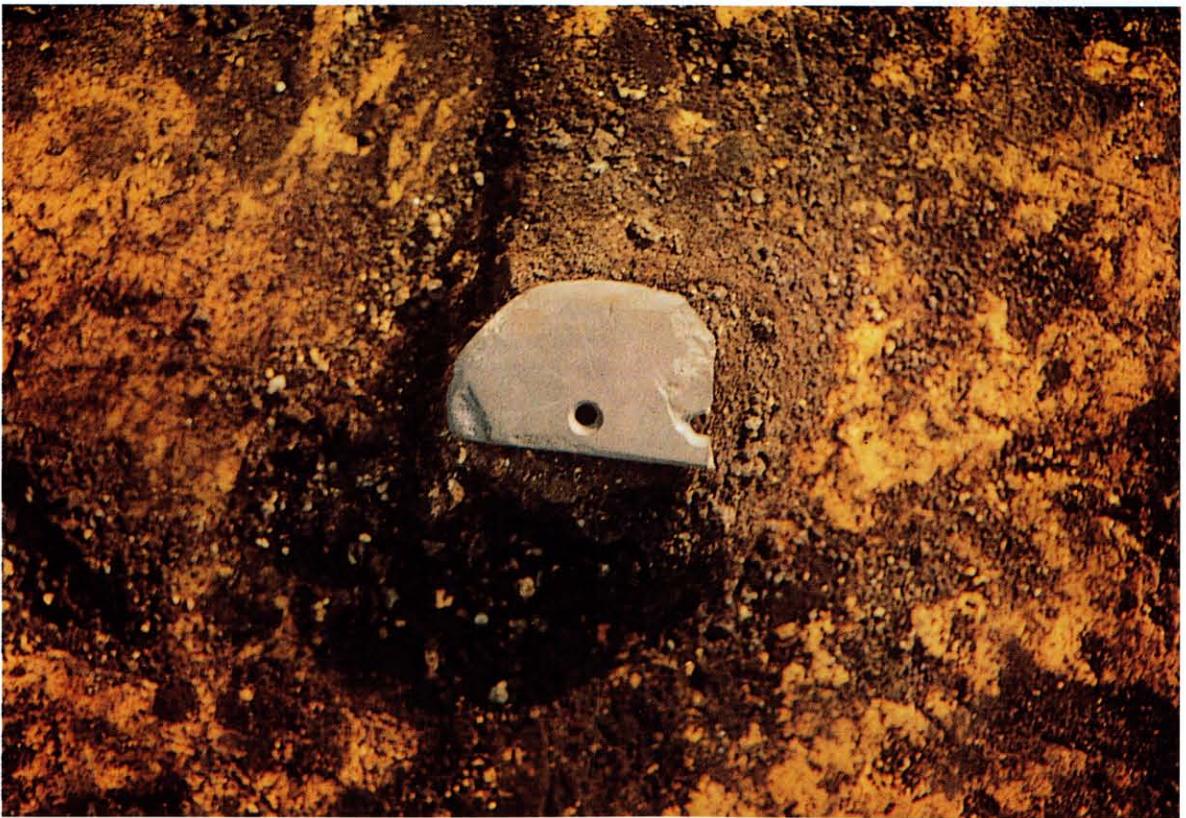
S A 0 1 遺物出土状況（部分）



S A 0 1 遺物出土状況（部分）



S A 0 2 木炭検出状況



S A 0 3 石包丁出土状況

報 告 書 抄 録

フリガナ	ミヤジイセキ				
書名	宮地遺跡				
副書名	西諸広域消防須木分遣所改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書				
巻次					
シリーズ名	須木村文化財調査報告書				
シリーズ番号	第5集				
編集者名	柏野勝重				
発行機関	宮崎県須木村教育委員会				
所在地	〒886-0111 宮崎県西諸県郡須木村大字中原1741-1				
発行年月日	2001年3月31日				
所収遺跡	所在地	北緯	東経	調査期間	
宮地遺跡	宮崎県西諸県郡 須木村大字中原 1741-1	32° 0' から 32° 10' の間	131° 0' から 131° 15' の間	1999.9.7 から 1999.11.1	
調査面積	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
639.16㎡ (延べ)	消防署建設	集落跡	弥生時代	竪穴住居	石包丁、石鎌、 弥生土器。
特記事項		備考			
円形プランの大小の竪穴住居 全ての住居から石包丁出土					

須木村文化財調査報告書 第5集

宮地遺跡 — 2次 —

西諸広域消防須木分遣所改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書

2001年3月

発行 須木村教育委員会

〒886-0111 宮崎県西諸県郡須木村大字中原1741-1

電話 0984 (48) 2266

FAX 0984 (48) 2120

印刷 株式会社長崎印刷

〒889-4413 宮崎県西諸県郡高原町大字後川内18-2

電話 0985 (42) 1069

FAX 0985 (42) 1330
